

香川県 桜川(多度津町)の治水事業

『総合流域防災事業 桜川改修工事』

たけち たもつ
香川県中讃土木事務所長 竹地 保



現在の施工状況



多度津町役場付近のイメージパース

桜川は、その源を普通寺市上吉田町に発し、多度津町西部の水田地帯を北西に流れ、途中で中桜川、小桜川、東桜川と合流し多度津町の中心部を貫流して瀬戸内海に注ぐ全体延長約7.0kmの二級河川です。

その流域は、普通寺市、多度津町の1市1町にまたがっており、支流を含めた流域面積約10.8km²は全域が平地で東に金倉川流域、西に弘田川流域との流域界をなしています。

太古、弘田川、桜川の川幅は現在の幾十倍もあったといわれ、東西から深い入江をなして多度津山一帯の地域は、この二つの河川に狭まれて島のようになっていました。

その後、沈積、隆起などの地表変化によって、この2河川の川幅は次第に狭くなり、多度津山は陸地と連なりました。また、多度津港とは別に、川域を利用した立派な舟溜まりがあり、大小の舟が往来していましたが、数次の埋め立てにより、現在のようになりました。

こういった地形特性も相重なり、桜川は度々台風などの大雨(S58年台風10号、浸水戸数1,720戸等)によって氾濫を繰り返し流域沿川の住民に多大な被害を及ぼしてきました。

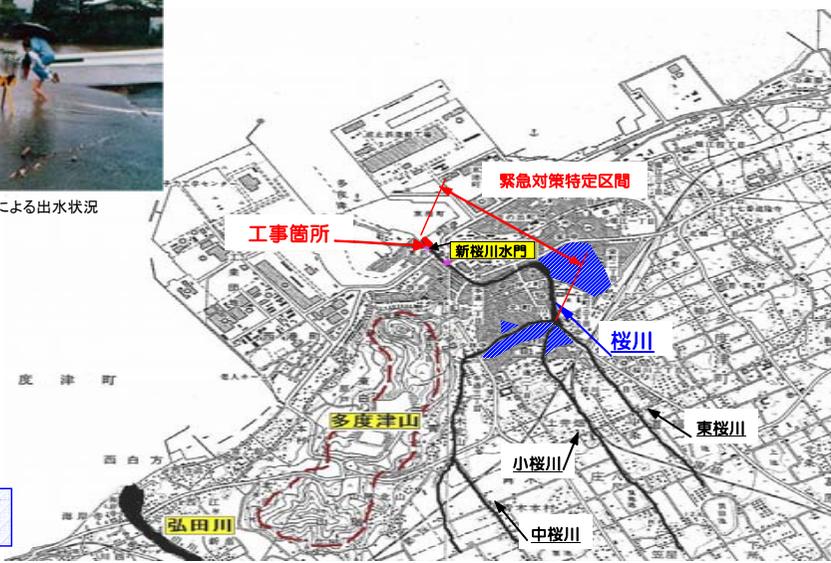
こうした度重なる洪水被害に対処するため、昭和59年度より国の補助を受け、改修工事を進めているところです。このうち特に狭小部が点在する「河口部～合流点区間(約1.3km)」は、平成15年度から「緊急対策特定区間」として、矢板護岸による護岸改修、改修に伴う水門等の改築を急ピッチで進めています。

現在は河口において、排水機場の改築工事を実施しており、平成20年度には「緊急対策特定区間」の工事完成を予定しています。

これらの完成により、内水排除能力12.6m³/sが確保され、河川の流下能力は34m³/sから120m³/sへと大幅に改善されます。地元住民からの、一刻も早い完成が待ち望まれているところです。



昭和58年9月台風10号による出水状況



H16台風23号による
浸水区域

よみがえる桜川

おくに ひろし

多度津町長 小國 宏



多度津町は、香川県のほぼ中央部に位置し、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園、南は緑豊かな讃岐平野が広がり、それぞれ美しい自然に恵まれた温暖な土地柄であり、昔から港町、鉄道の発祥の地として栄えてきた歴史ある町です。

2000年には、町制施行110周年を迎えた意義ある年として「環境のまち」宣言が行われました。さらに2002年には、ISO14001を取得し、環境にやさしい町づくりのさらなる進展を期する「ECO TADOTSU宣言」をスローガンとして採択しました。そして、現在、21世紀の新しい社会づくり「循環型社会の構築」を主要な課題の一つとして「人・環境にやさしいまちづくり」等を基本にした町政が進められています。

本町は、海、山、川の自然に恵まれ、四国霊場77番札所「道隆寺」や弘法大使ゆかりの「海岸寺」をはじめとする古寺社、県下有数の山城として著名な「雨霧城跡」、金毘羅街道の歴史をとどめる道標、わが国の埋葬の歴史上貴重な佐柳島の「両墓制」の風習など、特色ある歴史文化財を多数有しています。又、約2,500本のソメイヨシノの桜をもつ桃陵公園で「たどつさくらまつり」をはじめ、全国各地の名物風が集まる「たどつ全国風あげ大会」、さらには、世界に150万人の会員を有する「少林寺拳法連盟総本部」があり、多度津港では、40年以上の歴史がある花火大会が開催されるなど、多彩で個性豊かな観光・交流資源に恵まれています。

一方、本町の中心部に桜川、西部に弘田川が流れており、大雨や台風時には、水害から守る重要な河川であります。桜川は、水田や多度津町中心市街地の人家連担地を流れる河川であり、特に河口付近の堤内地盤が低いことから高潮時と洪水時が重なるとたちまち氾濫し、多大な災害が発生していました。

この対策として、昭和24年に金毘羅橋下流に水門と排水機場を設置し、必要に応じてポンプアップにより内水を排出してきましたが、水害に苦慮していました。その水害は、下流域の市街地が低平地であるという地形的特徴と出水に上げ潮が重なった場合や台風による豪雨等により水面上昇を招き、内水被害が昭和58年9月の台風10号から毎年のように大雨や台風で発生していました。その度、多数の土のうを造り、水中ポンプも用意し水害に備え対応していました。

本河川の治水事業は、昭和59年より着手して、特に川幅の狭くなっている3箇所の橋梁、河口から護岸改修を実施しており、下流域においては確実に洪水被害の軽減に効果を発揮し、地元町民は大変喜んでいました。

また、平成15年度から「緊急対策特定区間」として、早期完成に向けて、事業が急ピッチで進んでおりますので、最近の地球温暖化に伴う、はげしい異常気象の大干ばつさらにはその逆の集中豪雨による大洪水に、早期対応できることを期待しております。又、国土交通省等からの補助を頂き、平成16年に完成しました「多度津町再生水利用計画事業」による下水道の処理水をさらに高度処理し、河川維持用水として桜川水系4箇所に放流し、良好な河川環境の維持に貢献しております。又、毎年、多度津地区淡水魚養殖組合の協力により、桜川児童公園の護岸で多度津幼稚園の園児も参加して錦鯉などを放流しています。

桜川の改修に現在、国、県のご尽力、ご協力を頂き、1日も早い完成を願っています。併せて昔のように、洪水の被害もなく、水もきれいで、川で魚をとって遊ぶような水に親しむことができる桜川に蘇りつつあります。魚が棲み人々の憩いの場とし、桜川を中心とする各河川や海をきれいな環境に戻すことが安全で安心して暮らせる「人・環境のまちづくり」ができていることを町民は、強く望んでいます。



処理水を河川放流する噴水



鯉の放流をしている「桜川」